

心に響く記事を目指し地域に寄り添う

岩手日報社八幡平支局
支局長

牛崎 想也 さん

うしざき・そうや
30歳
小福田



平成3年生まれ。花巻市出身。平成26年から岩手日報社に務める。趣味はPCゲームと行楽で、着任前も妻と紅葉を楽しみに八幡平市を訪れていたと語る。血液型はB型。オーストラリアに生息する動物「クオッカ」の画像を見て日々の疲れを癒す。

「入社以来初めて1人で一つの自治体を担当することになり、緊張しています。それでもできる最大限のことをしたいです」と不安以上に熱い気持ちをのぞかせるのは、春から岩手日報社八幡平支局に着任した牛崎想也さん。「何よりもまず地域の人に顔を覚えてもらいたいです」と笑顔で話す。

幼いころから文章の読み書きが好きで、漠然とマスコミ関係の仕事に憧れを抱いていた。両親が地元花巻の児童劇団「劇団あす」の講師を務める関係で、幼少期から高校まで同劇団で活動し、大学進学を機に演劇サークル「劇団かつぱ」に入団。脚本を担当し、自分が書いたシナリオで観客を楽しませることがとても楽しかったと振り返る。演劇の道に進むことも考えたが、サークルとして岩手日報社の取材を受け、紙面を読んだときに「知らない人たちに私たちの活動や思いを届ける形



平館高の生徒にインタビューする牛崎さん

があることに気づき、強いやりがいを感じた」と同社への就職を志望。「こういう形で演劇に関わっていくこともできるんだな」という気持ちが後押しになった」と当時を思い返す。

入社後は整理部と大船渡支局で勤務。面白い話題だけでなく取材を辛く感じたこともあったが、取材した人から受けた感謝の言葉を原動力に変え、前に進み続ける。

「いろいろなイベントや活動の様子、十人十色の人生の話を聞かせてほしい」と語る牛崎さん。紙面を通じ、届けた思いの先に笑顔があつてほしいと、今日も市内を駆け回りペンを走らせ続ける。

【広告】

いぼ、癌、免疫系等
コミュニティバス
「にしね眼科」バス停すぐ
薬のプロフェッショナルが
あなたのご相談を承ります
漢方のあさひ薬局 西根中学校前店
公認スポーツファーマシスト
国際中医専門相談員
認定実務実習指導薬剤師
薬剤師 斎藤 貴将
八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311

■編集後記

▽七時雨牧野開校取材。短角と黒毛を鼻息を感じられるほど間近で見れて大迫力でした。特に迫力があつたのは大きな角。形もさまざまで、何の気なしに柵に当たっただけでもゴツと重くて鈍い音が周りに響くほど。子牛を守るための親牛同士の力試し、穏便に済ませてほしいと思いました。
▽取材と編集に追われる日々の中で、今まで気づかずに見過ごしていた八幡平の景色やイベントなど取材を通じて知ることができてうれしかったです。主任児童委員を取材した時陰ながら市を支えている人がいることに感銘を受けました。私も少しでも地域のためになるよう取材を続けていきます。

（雅）